

(学校運営協議会・報告様式)

令和7年度 第3回 桜島小学校 学校運営協議会 実施報告書

1 日 時 令和7年9月18日(木) 10:45 ～ 13:00

2 場 所 各教室(参観) 視聴覚室

3 あいさつ(委員長、学校長)

(1) 委員長より

今日は暑い中お集まりいただきありがとうございます。小学校を参観できる機会を大変楽しみにしていた。この後の時間もあるので、皆さんどんどん意見を出して、今後役に立つような話し合いになればよいと思う。以上。

(2) 学校長より

本日はお忙しい中ありがとうございます。2学期もどうぞよろしく。

2学期は一番長い学期であり、たくさんの行事も計画されている。行事は1つの成長のチャンスと捉え、その行事を通して子どもたちが1つ大きくなれたら良いなと思っている。今言われている「非認知能力」を高める上でも、貴重な機会と捉えている。より一丸となって取り組んでいきたいと思っている。

今日の資料の中に、運動会の案内を入れさせていただいた。行事の中の1つである運動会を今年も学校運営協議委員にも子どもたちの頑張りをみていただけたらと思っている。ご都合がございましたら、よろしくお願いいたします。

行事も色々ある中で、やはり日々の授業というのは、大事にしていかなければならないと思っている。子どもたちに求められていることは、「子どもが自分から学び取っていく」こと。「教えてもらう」とか「教えられる」のではなく、「学び取っていく力」というものを子どもたちに付けさせられるような授業を先生たちの方も色々工夫や研修をしながら行っている。また、それぞれのみなさんの立場で支えていただけると願っている。よろしくお願いいたします。以上。

4 協議内容

(1) 授業参観より

- ・児童の様子について
- ・学習環境について

協議(○:委員の発言 ●:学校側の発言)

○	どのクラスも全体的に児童が授業をきっちり聞いていた。
---	----------------------------

	これだけ暑くても、教室の中は涼しくて、暑くてだらけるということもなく、集中できていると思った。改修されているトイレは、段差もなく、車椅子でも使えるような形になっていた。少しずつ学校も変化してきていると感じた。 廊下に掲示してある習字や図工の作品をみていると、色使いなどが私たちの感覚とは違うし、生き生きした感じにみえる。習字の方も、すごく練習しているように見えた。
○	ローマ字を学習している3年生を参観した。Chromebook を使用しており、今から使用していると、小学生のうちからローマ字変換打ちができるようになっていいと思った。画面を見て学習すると頭に入ってきやすいのか、私たちの時代にはないような授業で面白いと思った。 廊下にたくさん非認知能力の本の紹介があった。
○	何人かでも興味を持って、本を読んで…。非認知能力のために読むのではなくても、今後の読書に繋がっていったらいいと思う。すごく良い試みだと思いながら見ていた。
○	トイレがすごくきれいになっていた。「わたしたちが掃除をしています」というような札が作られており、責任もってきれいにしてもらえて良いと思った。 本当にどのクラスの子も授業をちゃんと聞いている。机も寄せて学習しているクラスもあった。工夫して授業をしていると感じた。
○	1年生となかよしを参観した。楽しそうに学習していた。 移動途中、子どもと階段ですれ違うことがあった。子どもたちは右側通行が根付いており、左側を通行してしまい申し訳ないと思った。廊下歩行などの生活ルールが子どもたちの中で根付いていると感じた。 音楽でも chromebook を使うことに驚いた。 1点、気になったのが chromebook を見ているときの姿勢。大人でもやりがちだが、頬杖をついての視聴している子がいる。癖付くのはどうかと保護者として気になった。
⑤	校舎が建設され50年ほどたった。多少古くなっているが、きれいに使用していると感じた。50年立つと、汚れは目立つが、隅々まで掃除されていた。廊下は少し剥げていたが、本当に丁寧に使用していると感じた。 北館の方の防犯対策もきちんとしているところが良かったと思った。 2年生の教室移動。静かに並んで待っており、一言もしゃべらずに移動していた。ルールが守られているのは良いと思った。 時代が変われば色々変わっていくのだろうが、以前の置き傘は、斜めにそろえて置いていた。高学年にはその名残があるが、1年生は縦置きであった。全校で揃えなくても良いとおもいうが、パッと見てのきれいさは斜め置きだと思う。 予定黒板に担当の先生の名札が貼ってあったので「しっかりと教科担任制をしているのだな」と思った。桜島は早くから教科担任制に取り組んでいたと思う。教科担任制の良さとして、「中学校へ行ってもスムーズに移行できる」などがある中でも「いろんな目で子どもたちを見守れる」良さが大きいと思う。桜島小学校が落ち着いている

	のも、それが理由のひとつかなと思う。みんなが情報共有しながら、ひとりひとりのことも丁寧に見ていく良さがある。時間割を組むのは大変だと思うが、教科担任制を行うことは、こどもひとりひとりの成長に繋がると思う。
○	Chromebook を使用しているクラスが多かった。低学年でも活用しているのがすごいと思った。みんな、他所事しないで集中して取り組んでいた。 クラスに複数の大人がいることが昔と違う。良いことだと思った。
○	随分クラスの様子が、昔と違うと感じた。Chromebook を使用している授業を参観したが、昔は「はい」「はい」という声がたくさん聞こえていて活気があった。低学年は特に、「先生、当ててほしい」という子がたくさんいた。それを考えると、今は整然としている。ある男の子が chromebook を見せながら「先生、これでいい?」と小さな声で聞いていた。小さな声でも伝わるということは、それだけみんながしゃべっていないクラスということだ。休み時間を参観していないので何とも言えないが、がやがやした雰囲気かどのクラスも見られなかったことに驚いた。前回の参観時よりももっともって静かな今回の授業に疑問を感じた。
●	違った目での意見を聞かせていただいた。ありがとうございます。褒めていただいた点については教員にも共有し、教員の自己肯定感も高めていきたいと思う。 今、話していただいたように、授業スタイルが変わってきている。先生が前で説明する授業から、こどもたちが考える時間をメインにする授業への変換期である。前に立ち、教えてきた私たち年代としては、これでいいのか悩みながらやっているところである。こどもたちの主体性を大事にしながら、アウトプット、意見も言える場も必要だ…と、今、そういうことを教員同士で研修、研鑽に努めている。
○	こどもが中学生の時、リモートなどで意見の出し合いを文字で行っていた。小学校も似たような感じなのか。そうではない?
●	そうではない。
○	意見を言うときは挙手をするとか、先生に聞かれて答えるとかか。
●	そうである。ひとりひとりで考えたり、近くの友だちと相談して考えたり、自分で調べて考えたりという時間が授業の中で占める割合は増えてきている。意見をまとめて確認するために挙手をしたり、自分が考えたことを発表する時間になれば、挙手して発表する時間も取り入れている。
○	こどもの家の事情でタブレットが家にないか、学校でしか使えないとかの状況があると思うが、宿題などは chromebook では出ないのか。
●	Chromebook は持ち帰りをしている。基本、高学年は毎日持ち帰りをしている。なので、学校のを家でも使っている。
○	保護者に chromebook の扱いについてのお知らせはきちんとされているのか。
●	1年生の時点で、家の Wi-Fi 環境などをお願いしている。
○	はじめは、私も事情が全然わからず、保護者から「タブレットを買わないとだめなのか」という心配を聞いた。「貸出があるかもしれないし、学校できちんと話をきいてほしい」と伝えた後は、何も無いが、家の環境の違いは随分あると思うので、どうなってい

	るのか今日は聞こうと思って来た。 Chromebook を使用しているこどもたちの姿を見ると、ほとんどの子が普通に使用している。そういう環境ができてきているのだなと思って見せていただいた。
--	--

(2) 各調査より

・学校アンケートの結果から

ア. 学校長より説明

学校だよりに記載した資料を拡大したものを用意した。児童アンケートの結果と保護者アンケートの結果である。見て、ご意見がいただけたらと思う。

学校からの分析・見立てを少し話させていただく。

まずは、児童アンケートの中で、肯定的な回答が少ないのが「⑦自分には良いところがあると思う」である。今年も他の項目と比べると低いが、昨年より否定的な回答が少なくなった。いわゆる自己肯定感に繋がる部分である。これは、保護者アンケートの「②こどものよいところやがんばりをみつけ、褒めている」のが高い値になっていることから、おうちでも「褒める」ということを大事にしていることがわかる。また、児童アンケート「⑧先生は、自分の話をよく聴いてくれたり、自分のことを認めてくれたりする」も高い評価をつけている。保護者や教員から「褒められる」「認められる」ことを大事にしていることが、少しずつ子どもたちの自己肯定感に繋がっていると思われるが、鈴鹿市としても、全国としても、本校は自己肯定感の評価が低い。まだまだ取組が必要である。

児童アンケート「⑥1か月に読んでいる本の冊数」について。これは、高学年になれば分厚い本を何日もかけて読んだりするので、「1か月の冊数」では何も言えないが、「1冊も読まない」を選択した児童が全校で43人いる。全く本に触れていないという状況は少し悲しいと思う。6年生が行う全国学力・学習状況調査の児童質問紙の中でも読書に対する関心についての質問があったが、本校は全国平均よりも低かった。これが、課題である。保護者アンケート「⑤こどもに読書を勧めている」も値が低い。おうちでの環境、学校での取組を合わせて進めていかないことには、なかなか成果に結びつかないと思った。

児童アンケート「⑩月曜日から金曜日に寝る時間」について。裏面に学年別の数値を載せた。高学年になると就寝時間が10時以降の割合が増える。高学年に「9時まで寝る」とは言いにくい。10時までには寝てほしい。担任から話を聞くと、こどもたちの会話の中から察するに、遅い時間にもLINEのやり取りが多々あるらしい。LINEの使い方というのは、相手のことも思いやって使用しなければならないということを学校でも指導していきたい。系統的に1年生からモラル的なものも指導していきたいと思っている。

いろいろ見ていただき、ご意見をいただけたらと思っている。

イ. 協議(○:委員の発言 ●:学校側の発言)

○	やはり、ゲームとか LINE などでは就寝時間が遅くなる子が多いということか。
●	細かい調査はしていない。理由までの調査はしていない。
○	インターネットやスマホで就寝時間が遅くなるのは、親がコントロールできるのではないかと、いつもこの話になると思う。10時になったら、スクリーンタイムで使用できなくなるとか、ある程度規制しないと楽しいので、どんどん使用してしまうのは理解できる。親も一緒に就寝時間でスマホ利用を一時停止するなどした方がよいのではないかな。 読書に関しても「親が読まないとこどもも読まない」とよく聞く。親の姿勢をこどもはよく見ているのではないかな。「お父さんも、お母さんもずっとスマホ見てるじゃないか。ベッドの中でも見てるじゃないか」と言われたら、返す言葉がない。大人の考え方や態度もこども、特に小学生には親の影響というのはすごく大きいと思うので大事だと思う。親がコントロールしていないのか。
○	うちはゲームは switch を使用しているが、30分使用したら電源が切れるようにしている。
○	「(ゲーム時間が)あと5分しかないけど、もう少し延長して」と言われることは？
○	仕事中に「もう少し延長してください」とメッセージが届くこともある。 周りの話を聞くと、親が「ゲームが好きな世代」が多いため「親もこどもも全員が家でゲームをしている」と言っている。先ほど出た話のとおり、「親がしているから自分もする」ということは結構話に聞く。
○	「こどもがインフルエンザで大変やったけど、むっちゃゲームができました」といっていた保護者がいた。
○	読書の話としては、昔は週に1度、図書館にこどもを連れていき、「3人で15冊借りられる」と借りて読んでいたが、最近は連れて行っても上の子は「読みたい本がない」という。下の子は読書好きでたくさん借りる。わたしが読んでいると、下の子はそれらの本に興味を持って「面白い？文字しかないやん」なんていいながらもちょっと読んでりする。上の子は授業でしか本を読まないからか、漫画も音読をする。小さい頃から本を読んできたはずだが、読書(黙読)は苦手らしい。「なぜ、声に出して読むのか」と尋ねたら、「声をださないと読めない」と言われた。「図書室でどうしているのか」と尋ねると「小さい声で読んでいる」と話をしていた。親が本を読んでいると、上の子は本に興味がない。各々なのかなと感じている。
○	「音読はすごくよい」とこの間、家庭教育学級の講座の先生が言っていた。音読は黙読よりも脳への刺激が良いと言っていた。
○	(音読を)褒めた方が良かったのか。 本は漫画も入っているのか。児童書のみか。こどもたちがアンケートの際、どこまで分類しているのか。
○	うちの子が今高校3年で、中3のときにこういう調査で「家の本棚にどれだけ本があるか」とイラストで表された項目があった。その時は、「漫画・雑誌も含む」だった。「文字離れ」を懸念してのことかなと思った。冊数をイラストで表現されており、おもしろ

	ろい調査だと思った。
○	今年、下の子に読書感想文を選択するか尋ねた時「本はなんでも良い」といったら、「鬼滅の刃でもよいか」と返された。「それは違う」と答えたが、こどもの中で「児童書」と「漫画」の区別はないのかなと思った。
○	「漫画でわかる理科の実験」みたいな本。図書館にもたくさんある。
○	歴史の漫画も多い。
○	でも、それらも「本」というイメージでいた。
○	だから、こどもたちの中で本は分類されているのか、疑問である。「月6冊以上」が「漫画を読んでいる」であれば、少し話が変わってくると思う。
○	漫画にも雑誌と学習漫画と区別される。
○	このアンケートとしては、漫画でも良いとしているのではないか。 紙でできた冊子を見ているかどうかだけだったら、漫画も良い。目的をもって本を読んでほしいというものであれば、その目的に合わせた内容の本でなければカウントしない。と、なると「読書をすすめる目的」は何か。 どんな目的で「読め」というのか、一度見直すべきだと思う。言葉を覚えるにしても、本から得たものは「正しい」とは限らない。何を目的に本を読んでほしいのかをもう少しアピールしていかないと、混乱すると思う。
○	そんなにたくさん読まない人は少し目的をもって本を選んだ方がいいのかなと思う。「本の選び方」みたいな説明があったら、少し意識が変わるのではないかなと思う。
○	今、理科系の話を題材にした本を読んでいる。理科や数学は苦手な方で、文系に偏っていたのだが、文字で読むと「こういう本に高校生の時に出会っていたら、もっと物理が好きになったかもしれない」とか「科学おもしろいな」と思うこともある。こどもたちの学習でも、苦手とっていても「こうやったらおもしろい」ということが知れるきっかけになるかもしれない。やっぱり、こどもたちは未来がすごく開けているので、自分の興味を持つものを本からも見つけてくれたらいいと思う。インターネットなどの情報もあるが、本とかいろいろな手段で見つけられたらいいと思う。
○	私は本を読んでも全然わからなかったことでも、漫画を読んで理解したことがある。漫画を読んだ後にもう一度、本を読んだ。その内容は今でも頭に残っている。最初に読んだときは、知らない漢字を調べながら読んだので、「何をいいたい本なのか」で終わってしまった。同じ内容の漫画の本を読んだら、すごくイメージがわいた。その後、もう一度本を読んだ。その体験しかない。読書導入は、「漫画はだめ」ではなく、漫画を読んで「いいな」と思ったら、ノベライズ化したものを読むなど、順番に読んでも良いと思う。 「本を読みなさい」と言われると、「絶対いや」と思っていた。何か1つきっかけがあって「いいことが書いてあるな」と思ったら、レベルがあがっていくので、「この本以外を読みなさい」という与え方ではなく、「これおもしろいよ」と与える。それがすごく簡単でも「また今度どんなものを読むかな」と見守ってほしい。自分がそうだった。すごく簡

	単な本から読み始めた。それから本を読むようになった気がする。
--	--------------------------------

・全国学力状況調査の結果から

ア. 学校長より説明

数値的なものは、学校だよりに記載した。国語、算数は全国と比べ1ポイント程度上回ることができたが、理科は下回る結果となった。理科は3年に1度調査されるもので、今年は実施年だった。問題を配付したので、興味があれば見てほしい。学調は今、求められている力がついているかどうかを調査できる問題がものすごく考えられて作られている。その中で1問、算数の問題を見ていただきたい。

図形の面積を求める問題なのだが、特徴的なのが、公式がテストに載っていることだ。昔は「公式を覚えているか」という力がはかられており、答えを計算した。今は、五角形という公式では求められない図形を自分が知っていることを使って如何に解くことができるかということをはかる問題になっている。ここに2人、自分の解き方を説明している文がある。多様な考え方の中で、自分に合った方法を選んだり、よりよいと思う方法を見つけ出して、その解き方を説明できるか、アウトプットできるかということが今、求められている力として出題されている。どの教科にしても、自分で考えることができるかという力と必要な情報を見つけ出すことができるか、自分の考えたことを必要な条件に合わせて説明できるかという辺りが求められていると感じている。

イ. 協議(○:委員の発言 ●:学校側の発言)

○	計算問題がないことに驚いた。中学校の学調結果では、数学の点が少し、低かったらしい。問題がすごく長く、何を問われているか理解するまでが困難な子が多かったと言っていた。小学校の算数も文章も長いと驚いた。
●	いらない情報がたくさんある。その中から少しの必要な情報を見つけてこれるか、という問題がたくさんある。
○	出題者の意図が読めるかどうか、という質問かなと感じた。どうしてこのような問題を作るのか。小学生にこのようなことまで要求するのかと驚いた。
○	何年生で行う調査なのか。
●	6年生。
○	これを見て、先生方がこういう問題が解けるようなこどもに育てるというのはすごく難しい課題だ。
○	算数できる以前に国語ができないと、少し難しい。算数自体は得意なのに、国語がすごく苦手なので、文章問題になると一気に間違いが増える。
○	読むのが好きな子はサクサク読んで、読むのが苦手な子は見ただけでしゅんとなる。何を求めているのか、読み解くだけでたいへん。

5 教育支援課より

今日はありがとうございました。今日は給食を楽しみにしていた。担任を持っているときは、給食の味を感じることは一切なかった。給食の準備をさせて、いただきますをするが、自分はこどもたちの様子を見なければならないので、5分以内に食べていた。そして、こどもたちの様子をみながら丸付けをしていたため、落ち着いて食べたことがなかった。今日はおいしくゆっくり食させてもらった。

今日、授業を参観して「授業スタイルが変化した」と感じてもらったところだが、今はもう少し変化している。昔は一斉型の学びだったが、今はそうではなく、課題だけ与えて、それをどう解くのかを自分で考える先進的な学びに取り組んでいる学校がある。先日、鈴峰中学校がテレビの取材を受けた。あのような授業形態で、chromebook を使いながら、グループでまとまりながら、本で調べながら、一人で考えながらと、学び方を自分で選択して解いていく。先生は何をしているかという、それぞれのこどもたちがどのような形で学習しているかをこどもたちが chromebook に書き込んだ進捗を見て把握する。支援が必要であれば、そばへ行き支援をする、というような授業スタイルに変わっていく。桜島小も今後、参観した際、そのようなスタイルになっているかもしれない。勝手に立ち歩いている授業に見えるかもしれない。複線型学習の前の段階の、自分で学ぶにはどうしたらいいかということを桜島小のこどもたちは学習している。ゆくゆくは複線型スタイルの授業に変化していくと思っている。しかし、すべての授業がそのようなスタイルで学習するわけではない。中には今まで通り、知識を与える場合は、それに合わせたスタイルで授業をする。主体的な学びを多くとる学習をする際には、複線型の授業スタイルになる。今後こどもたちはそのような学びをしていく。見守ってほしい。

読書について。Chromebook を使用していると、どうしても本を読む時間が少なくなっていくということは、いろんな運営協議会で出ていた。どうしたら、スクリーンタイムを減らせるか。やはり、本を読む。どのように与えるかは難しいが。なんとか、本の方に興味を向かせて、スクリーンタイムが減る分、本に時間をもっていけないかという話をした学校がある。活字というのは、脳にとっては良いらしい。声に出して読むことが一番良いらしい。目で見るだけでは、なかなか脳が働かない。自分で字を見て判断すると、脳は活性されるということはいろいろな研究論文である。Chromebook は学習道具の1つとして使用しながら。紙で読解力をつけるということは大事。その辺はバランスよく、教育委員会としても取り組んでいる。全部が全部、Chromebook で学習しているわけではないということをご理解いただきたい。今までやってきた読書を大事にする。いきなり字ばかりは難しいので、興味付けのために「漫画」というものも介しながら、「紙で読むこともおもしろい」と少しでも読書の時間を延ばしてほしいと思う。

学調について。みなさんの感想通り、ほとんど字ばかりのテストだ。この問題を解くには、やはり読解力がないと難しい。それをするには、また戻ってしまうが、本を読むことが近道である。もう一つ、新聞があるが、購入していない家庭が増えている。教育委員会としては、新聞を読む家庭が少ないため、新聞を使った問題を用意している。そういったことをしながら読解力をつけようとしている。

桜島小は全国平均よりも上回っているが、学調は1つの側面である。それでも、全国平

均をとることはなかなか難しい。結果から、すべての先生がちきんとこどもたちに力をつけさせようと日々努力していることがわかる。地道な取組をしながら、桜島の子を育ててほしいと思う。

今後も読書のことなども話題にしながら、こどもたちのことを話す場になればと思う。

6 その他

- ・学校だよりについて
- ・第3回学校運営協議会について
- ・第4回学校運営協議会について